



「読書の秋」読書週間 10月27日～11月9日

読書週間とは、10月27日から11月9日までの2週間にわたり、読書を推進する行事が集中して行われる期間のことです。人間が考えたり、想像したりするのは、全て言語によります。人間の脳の左の部分は、言語中枢であると言われています。この左脳を十分に発達させる意味で、読書は大事な役割を果たしています。また、本を読むという行為は、学力の根底をなす言語能力を育てるだけでなく、感性をつかさどるといわれている右脳を発達させ、豊かな人間性を育てるとい働きの上で、かなり意義が高いのです。



「豊かな心」「思いやりの心」を育てるとは

思いやりの心とは相手の立場に立って考えたり、気持ちを理解したり、その場に合った行動のできる心情です。この心は親の深い愛情や家族との温かい交流の中で育ち、近隣の人たちや多くの人々とのふれあいを通じて培われます。また、実際に自分が困ったときに助けてもらった経験等によってさらに深い思いやりへと広がっていくのです。思いやりの心が欠ける原因として考えられることは「自分だけが大切という社会的風潮」や「余裕の無さ」です。子供は困っている人や傷ついた小動物に接すると通常はごく自然に同情の気持ちを抱きます。それを素直に行動として表すこともそれほど難しいことはありません。たとえ、その表し方はうまくなくてもそのような場面に接したときにはそれを励まし賞賛することは大切なことです。また、自分の体験談やテレビ等で伝えられている外国の厳しい状況などについて家族で話し合うことも思いやりの心を育てる上で大切なことです。

不審者に注意！下校の際は、なるべく複数で帰るようにしてください。



危険を回避するための合い言葉 **いかのおすし**

- いか：ついて行かない
- の：車に乗らない
- お：「助けて」と大声を出したり、防犯ブザーを活用する
- す：怖い思いをしたら大人がいる方にすぐ逃げる
- し：周りの人にすぐ知らせる



不審者を見分けるための合い言葉 **はちみつじまん**
※ステップ総合研究所が考案した子供の防犯合い言葉

- は：しつこく話しかけてくる人
- ち：ぐんぐん近づいてくる人
- み：じっと見つめてくる人
- つ：後をいつまでもついてくる人
- じま：じっと待っている
- ん：こんな人に出たら「んっ？」注意